

菊陽人 りさーち



とみなが たいよう
富永 大耀くん
(7歳・大堀木)

- 趣味
サッカー
- 将来の夢
サッカー選手
- 自慢できること
足が速い
- 今一番やりたいこと
サッカーをしたい

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。



たかみや ゆめ の
高宮 夢乃さん
(8歳・宮ノ上)

- 趣味
お友達と遊ぶこと
- 将来の夢
幼稚園の先生
- 自慢できること
ピアノで「ねこふんじやった」を弾くのが早いこと
- みんなに伝えたいこと
みんなお友達になってね

むくぐくをはな心かなたゆ 人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.50】

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

※作者の学年は前年度の在籍学年となります。
◇印からの文章は先生のコメントです。

水俣から学んで クラスで考えたこと

菊陽西小学校5年 石山 礼菜

私は、水俣の学習をしていて中学生が水俣のことについて書いた作文を見ました。その作文を読んで、水俣のイメージが変わりました。昔、水俣病が発生した水俣。日本人の多くが、水俣Ⅱ公害の町と知っていたのではないだろうか。しかし、今は春になると桜の花が満開に咲き、一面に広がる青い海、自然豊かな町です。水俣病が発生した時、うつる病気だと思われ、差別などを受けとてもつらい経験をしたと書かれていました。水俣病により、多くの人が亡くなり、今も苦しんでいる人たちがいるそうです。最近でも、うつる病気だと思っている人がいるそうです。この作文を書いた人は、学校の授業で水俣病の名前を変えるべきか変えないべきかについて、討論会をしたそうです。私だったら変えた方がいいと思います。私は、



▲水俣に学ぶ肥後こ教室

水俣の人は水俣のことを好きだから、とても強い人になったんだと思いました。水俣のことを学んだ私たちは、みんながクラスの中の差別を見つけたら始めます。まず、クラスの課題を出しあいました。特に多かったのは、「人によって態度をかえる」という意見でした。人によって態度をかえるというのは、水俣病にかかった人だけを差別するのと同じだと思いました。次に、こころ交流をしました。みんなに伝えたい心、分かりますか？言え、自分の身の回りで起こった差別や自分かしてしまった差別などをだしあって謝ったりしました。人の失敗を笑ったりするおかしさがだされました。周りの人たちがささいなことだと思っても相手手がかさぐさ傷ついているということに気づきました。

次に、こころ宣言をしました。班で宣言を出しあいました。「人によって態度をかえない」という宣言が多くだされました。「悪口やかげぐちを言わない」と宣言した班があつて、みんなはそれを「あたりまえだろ」と笑いました。しかし、先生は「うちのクラスは、そのあたりまえのことさえできていないから、その宣言はとてむいと思つ。」と言いました。私は、確かにできていないと思いました。宣言を聞きながら、水俣の人たちがいるんことを宣言し、またきれいな海を取り戻すことができたことを思いだして、宣言することは大切だと思いました。

最後に、ありがとうメッセージをしました。これは、ありがとうを伝えるためのカードです。たとえば、「ふでばこを落とした時に何も言つてないのに拾つてくれてありがとう」や、「山登りの時、助けてくれてありがとう」などです。今も帰りの会の時に、ありがとうメッセージをだしあっています。私は、なかなかありがとうということがなかったもので、その分、人を助けることをしたいと思います。

私は、今日けんかをしている三年生を見かけました。前に三組の人が低学年の人に「自分がされていやなことは、しちゃだめだし、言つたらだめなんだよ」と注意しているのを見て、すごいなあと思つたことがありました。私は、「あんまりけんかはしない方がいいよ。友だちなんですよ。」と言いました。後ろにいた先生が「そうよ、けんかしちゃだめよ。ありがとうね、注意してくれて。」と言つてくれました。私はうれしかったです。だから、今度からいじめや差別などをしてる人を見かけたら、クラスの人だけではなく、違う学年の人にも注意していきたいです。水俣の学習をして、いろいろなことを学ぶことができてよかったです。

◇水俣の学習から、自分たちのクラスを見つめ直し、おかしさをなくしていくという行動につながっています。行動としての第一歩を踏み出そうとしている姿が心強いです。

菊陽句会報

きくよう文芸

対向車なき裏道や露の雨 坂本百合子
樹々芽吹く只なかにみて阿蘇夕焼 田中 郁子
摩耗せし野の地蔵尊花ふぶき 井 子文
子の蹴りは挨拶代わり入園式 財津 早雪
夫振りし筍づくしの夕餉かな 原野レイ子
吹き上がる風は瑠璃色春竜胆 力 幸子
顔寄せて春かぎつつ木の芽摘む 寺尾千代子
雨しどど里は菜の花野辺送り 高橋 孝子
大地から剥がす筍鉾の音 堀川 妙子
せりの香や口にはどけてなごみたる 福田 貴子
汗ばんで神社の社におにごっこ 佐藤 健
芽木の坂今日も走れるマラソン氏 佐藤 節

黄砂降る三千キロの海越へ来 吉野 早苗
参勤路植ゑ継ぎつぎて今日の花 井上久美子
菜の花やガレキの河原彩りぬ 宮川ユキエ
陽にまみれ囁りまみれの庭ひと日 日高 妙子
料峭や迷ひ込みたる救急車 曾我 育代
辛夷の芽あたり散らかす鶉の影 曾我トモ子
初蝶のさ迷ひあしが垣根越ゆ 紫藤 祥子
桃の花咲きて雨情の石畳 村上 朋子
一周忌妻の声聞く春の夢 野口 令史
大将をゆめみし頃のさくらかな 松橋 強
おとつとと躑ぐ先の草かな 藤本 純子
花の屑しまき発ちたる集乳車 佐藤 澄世

短歌会

日溜りに雀は集い並びおり寒の戻りに羽根膨らます
もう少し甘さを増せと収穫を延ばしたメロン割れて横たう
桜散るいつせいに散るこの夕べ思いの残るなきがごとくに
朝ながら白き煙に覆はれて恐れて覗く深き淵底
緑なる大地の向うに淡々と桜霞みぬ吾が古里は
朝々に窓越しに見る花水木日に日に朱の色増して来ぬ
ウグイスの澄みし声にて迎えられ里山を行けば心静まる
雨多き今年も見事に咲きました屋根より高きライラックの花
せせらぎの光り流るる水の辺に色新しき水仙の花

今村 貞子
梅田 國雄
河北 幸一
菊川あさみ
佐藤せい子
下田 久子
中村トシエ
山川 カヅ
松本 東亜